

理科も算数も楽しく学べる子どもに育てたい!

ロボット作りに挑戦

先生も算数好きになろう!



6月29日(水)教員対象で算数科の体験研修を行いました。今回の研修では、音羽中学校との小中連携の取組の一貫として音羽川小学校や大塚小学校の先生方をはじめ、近隣の小学校にも参加を募りました。

講師は、寺子屋スロー数学の活動を進めておられる近畿大学大学院の尾和重義教授です。尾和教授には、昨年度6年生を対象に「算数」東海道五十三次」の体験学習のお世話になりました。今回は、先生たち自身が、「算数のおもしろさ」を体験して子どもたちにも楽しい授業を提供できるのではないかと研修を企画しました。研修内容は、「2進法とバーコード」でした。先生たちは、日常何気なく接している身の回りに算数や数学につながる内容があることに感動したり、問題を解くプロセスを楽しんだりしながら取り組みました。

学校では、算数大好き子を育てるために、研究教科を算数科にし、算数の授業の改善に努めています。子どもたちに必要なのは、すぐに答えを求めることよりも、
「この問題を解くためには、どんな方法があるのかな。」
「前に習ったどの方法を使ったら、簡単に解けるのかな。」
「文章題を図や線分図で表してみよう。」など
考えるプロセスを大切に楽しむ子どもに育ててほしいと願っています。

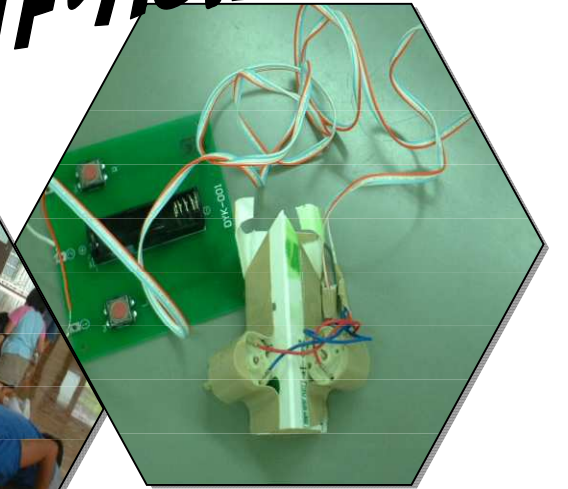
今回の研修を通して教師自身が子どもの視点に立って指導の工夫・改善ができるようになることを期待しています。予定としては、夏休み明けの9月頃に音羽・音羽川・大塚の子どもたちを対象に土曜塾を開いてバーコードの秘密にせまります。先生の研修から子どもたちへの授業の様子をNHKが取材する予定になっています。



6月11日(土)ふれあい活動「ビオトープに花をかざろう」の行事が行われました。あいにくの雨模様でしたが、親子で参加して下さった方々とともに地域の干場さんの指導のもと、体育館東横の流水池のまわりにたくさんの植物を植えました。ツワブキ・ショウブ・クチベニシラン・カラーなどを池の周りに植え、ニチニチソウ・ケイトウなどの苗をプランターに植えてまわりをかざりました。

殺風景だった流水池も涼しげな水辺の植物とかわいらしい花々に囲まれて心をいやしてくれそうな庭に変身しました。今後は、理科や総合など子どもたちの環境学習にもふるに活用していきたいと考えています。

7月の参観にこられる折などに是非鑑賞してください。



6月14日(火)5・6校時に発明協会のご協力を得て、6年生の理科の授業を行いました。全国出張電子工作教室から講師の先生をおむかえして、「発明のお話」と「かたつむりロボットの工作」を行いました。

子どもたちは、発明とアイデアとの深い関係のお話に共感したり、モーターを使ったかたつむりロボットの製作に打ち込みました。「どうしたらまっすぐ走るのか」、「スピードが出ないのはなぜか」などを考えたり、かざり付けに工夫を凝らしたりと自分だけのかたつむりロボットを仕上げていきました。2時間があっという間に終わりました。

学校でも子どもたちの自由な発想を生かした理科の授業を大切にしていきたいと考えています。

紹介

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の取組として学校安全ボランティア～スクールガードリーダー～が発足しました。音羽の地域は、栗津従道様が担当していただくことになりました。腕章と帽子をつけ、1ヶ月に2～3回登下校での子どもたちの安全を見守っていただくことになりましたので、ご紹介します。7月は、5日と15日に回っていただきます。子どもたちには、テレビ放送で紹介し、顔を覚えてもらいました。防犯推進委員の皆様や地域委員の保護者の皆様とともに、さらに子どもたちの安全確保に努めていただけたと思います。